

19 日本国特許庁 (JP)

実用新案出願公開

12 公開実用新案公報 (U)

昭58—161382

51 Int. Cl.³
H 04 R 1 10

識別記号
103

厅内整理番号
6507—5D

43 公開 昭和58年(1983)10月27日

審査請求 未請求

(全 頁)

54 耳栓型ホーンのヘッドバンド

相模原市上鶴間3622日本マラン
ツ株式会社内

21 実 願 昭57—59289
22 出 願 昭57(1982)4月22日
23 考 案 者 香原 樹

出 願 人 日本マランツ株式会社
相模原市上鶴間3622番地
代 理 人 弁理士 今岡良夫

明細書

1 考案の名称

耳栓型ホーンのヘッドバンド

2 実用新案登録請求の範囲

弾性線材を円弧状に屈曲させてヘッドバンド本体1を形成し、該ヘッドバンド本体1の両端部に合成樹脂等で形成したホーンホルダ2、2をそれぞれ摺動可能に装着し、該ホーンホルダ2、2は、ヘッドバンド本体1に摺動可能に嵌合する真直な筒から成る基部21、21を設け、該基部21、21に側方へ開口する嵌合筒23、23を装備し、該嵌合筒へ耳栓型ホーンを着脱自在に嵌合せるよう構成したことを特徴とする耳栓型ホーンのヘッド。

3 考案の詳細な説明

本考案は、耳栓型ホーンのヘッドバンドに係るものである。

最近、高性能の耳栓型ホーンが市販されている。この耳栓型ホーンは、字が示す通り、耳に栓をするような状態で使用するが、人によつてはこのよ

(1)

795

実開58-161382

うな使用に不快感や不安定感を感じことがある。

本考案は、このような場合に、補助的に使用できる簡易型のヘッドバンドを提供しようとするものである。

以下、図示の実施例について説明する。

図示のものは、ピアノ線等の断面円形の弾性線材を円弧状に屈曲させてヘッドバンド本体1を形成し、該ヘッドバンド本体の両端部に合成樹脂製のホーンホルダ2、2をそれぞれ摺動可能に装着している。

ホーンホルダ2、2は、ヘッドバンド本体1に摺動可能に嵌合する真直な筒から成る基部21、21を設け、該基部の側面から短いアーム22、22を垂設し、該アームの先端に側方へ開口する嵌合筒23、23を突設し、該嵌合筒の一部にコード用の切欠24、24を形成し、適宜合成樹脂により一体成形している。

而して、ホーンホルダ2、2は、その基部21、21をヘッドバンド本体1へ嵌合させて後、ヘッドバンド本体の両端にストップ11、11を固定

して、抜け止めしている。

如上の構成であるから、耳栓型ホーンA、Aの基部を嵌合筒23、23へ嵌着すると共に、コードをその嵌合筒の切欠24、24へ通し、従来のヘッドホンと同様に使用できる。

本考案によれば、通常、耳に栓をする状態で使用する耳栓型ホーンA、Aを、嵌合筒23、23へ嵌合することによりヘッドホンとして使用でき、耳に栓することによる不快感や不安定感を除去できる。

また、ヘッドバンド本体1が断面円形の弾性線材から成り、従つて、ホーンホルダ2、2が回転可能であり、方向を各人の耳に十分に適合させることができ、更に、そのヘッドバンド本体1が円弧状に屈曲しているのに対し、ホーンホルダ2、2の基部21、21が真直な筒であるから、ヘッドバンド本体の弾性がホーンホルダの基部21、21に作用して、該基部がヘッドバンド本体へ摩擦係合し、ホーンホルダが不意に移動するようなことがない。しかも、構造が極めて簡単であり、

製作容易であり、安価に提供できる。

4 図面の簡単な説明

図面は、本考案の実施例で、第1図は、斜視図、第2図は、要部の縦断正面図、第3図は、要部の側面図である。

1 … ヘッドバンド本体	2 … ホーンホルダ
2 1 … 基部	2 2 … アーム
2 3 … 嵌合部	2 4 … 切欠
A … 耳栓型ホーン	

実用新案登録出願人

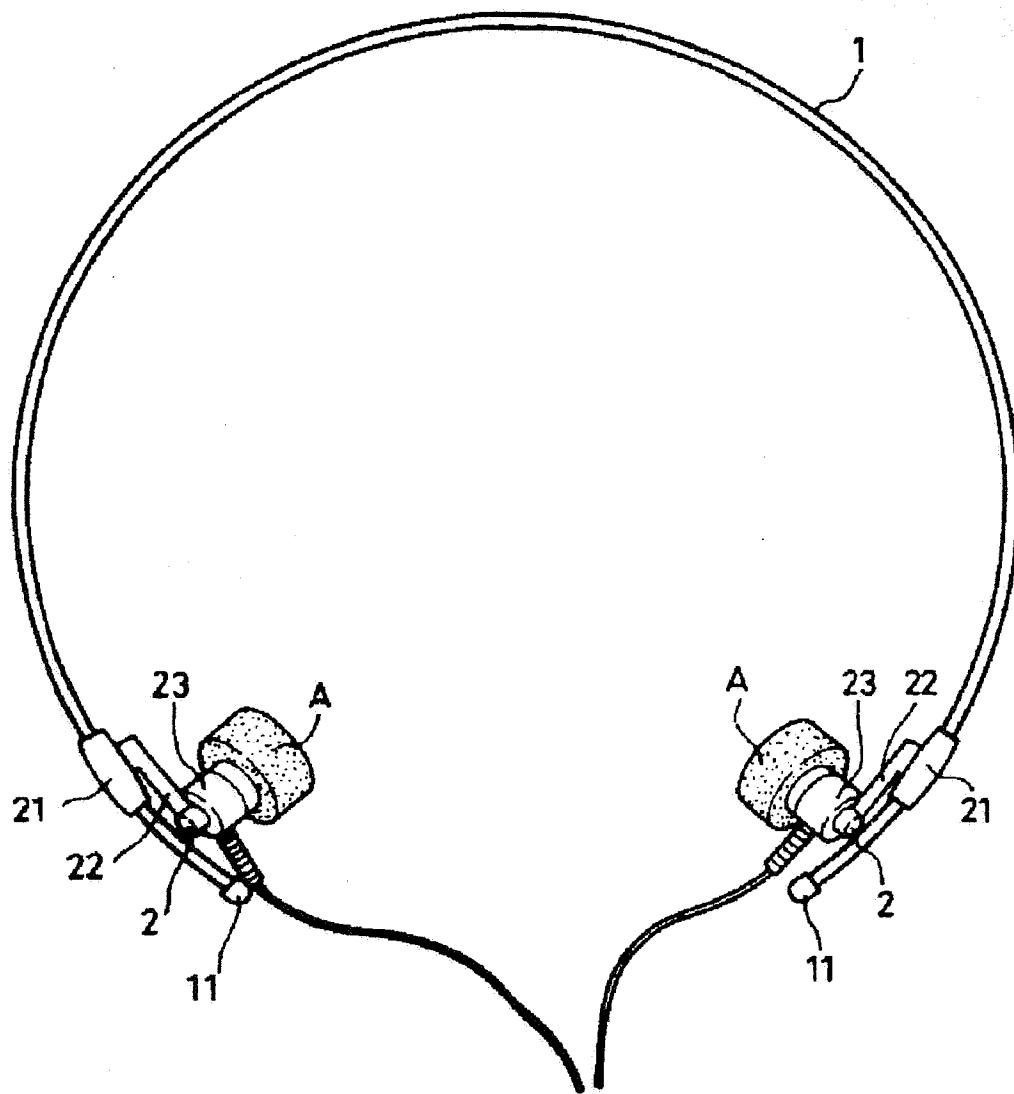
日本マランツ株式会社

代 理 人

今 岡 良 夫



第1図

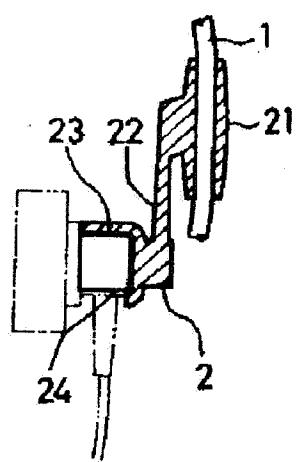


799

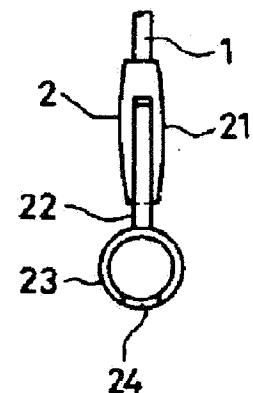
昭和 58-161382

出願人 日本マランツ株式会社
代理人(弁理士) 今岡 良成

第2図



第3図



800.

ヤ雲

出願人 日本マランツ株式会社

代理人(弁理士) 今岡 良夫